

朝の散歩 PART 1

報告者：小泉貴啓



★ロスキレ市の朝の空気に触れる

8月19日、視察の旅、初めての現地での朝を迎えました。

日本との時差は7時間あり、時差ぼけも感じましたが、部屋を一步出ると、日本と比べてとても涼しく、湿気も少ない心地よい空気とやさしい日差しに、気持ちは晴れ渡りました。中能さんの案内のもと、第一日目の朝の散歩が始まりました。

★ロスキレ大聖堂

湧水と緑豊かな公園を抜けると、朝日を受けるロスキレ大聖堂が見えました。世界遺産に登録されていて、1000年の歴史を持ち、中にはデンマーク歴代の君主の石棺が置かれているということでした。

昨年までは、改修工事のため、全体を眺めることができなかったということで、今回はとても幸運でした。

ロスキレの中心に位置する、このロスキレ大聖堂は、滞在中、毎日見ることになりましたが、研修を受ける中で、デンマークの人々の愛国心や誇りを感じ、その象徴であるかのように、日々見え方も変わっていくことになりました。

★古い街並み、シンプルな生活

ロスキレ大聖堂を中心に、街並みには、古い建物が立ちならんでいます。地震がないということもあるようですが、やはり良いものを大切に使うという姿勢を感じました。

物が少なくごちゃごちゃ感がありません。看板なども必要最低限のものといった感じで、すっきりしています。このことは建物だけでなく、服装や日用品などにおいても同様のようです。物を大切に使い、シンプルな生活をしていることが、街並みを見るだけで伝わってきます。



★国旗と愛国心

また、細長い国旗が住宅で掲げられているのをよく見かけました。中能さんから、“デンマーク国民は国から愛されている”そんなお話がありました。日本人はあまり国旗を掲げません。日本人は日本を愛していないのか？その問いに胸を張って、愛していますと答えることはできませんでした。デンマークでは、国民が国を愛せよではなく、国が国民を愛するから、国民は国を信頼している。世界最古の国旗といわれる国旗を目にし、その関係のすばらしさに深い感動を受けました。

体内時計リセットも兼ねた、一時間余りの朝の散歩でしたが、歩いて街を巡り、歴史や人々の生活、考え方までも、肌で感じることができました。



朝の散歩 PART 2

報告者：酒井あや子

★朝の散歩・8月20日(火)

早朝6：00 集合。



今日も天気に恵まれすがすがしい気分。朝の体操と散歩のおかげで、時差ボケか

ら開放されつつあります。ダンホステルから前の方面へ歩き始めました。中能さんのお話しではデンマークの人達の休日の過ごし方は、7日間～10日間の休みをとり乗用車にキャンピングカーをけん引して旅行に出かけるそうです。日本の休日の過ごし方や楽しみ方、お金のかけ方が違うとのこと。

ダンホステル左側に大きな木の丸太が置いてあり、ここではバイキングの心意気を学ぶ体験ゾーンで昔の道具を使いバイキング船を建造中。

歩いて行く途中に煙突のある家を見つけました。デンマークには煙突の掃除職

人がいて、マイスター制度(親方に付く)として年齢に関係なく 17~23 万の給与をもらいながら勉強しているそうです。

360 度見わたしても山らしき山はありません。左に曲がりなだらかな坂道を歩きます。日本と同じ紫陽花の花が咲いて、何だか懐かしい気持ちになりました。風の強い地域で庭に木を植えているそうです。幹が白樺の木に似ていて枝が柳のように下がっている不思議な木は、後から夏代さん教えていただいたて、「しだれ白樺」と知りました。



道路は自転車道路と歩道がきちんと分けられているので、私達にとっては意識で歩かないと、迷惑をかけてしまいそうになりました。

住宅街の中に「ハーレスボー」といって、精神疾患の病気を持っている人達のグループホームがありましたが、周りに住んでいる方々からは反対運動はおきなかったそうです。デンマークの人々は、人は平等であることをあたりまえと捉えていることを感じました。

朝の散歩は、一日のスタートとして最高の時間でした。